

## 外需関連株中心に底堅く推移するも、市場参加者少なく上げ幅は限定的

2010年3月19日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

### ギリシャの財政赤字問題への懸念はくすぶるも、企業業績改善期待等を背景に株価は底堅く

ギリシャのIMFへの支援要請の可能性が一部メディアで報じられたことなどから、ギリシャ救済計画への懸念が広がりました。ギリシャの財務相はこの報道を否定しましたが、欧州株式相場では金融株中心に売られ、小幅反落となったほか、為替市場ではユーロが軟調な展開となりました。

一方、米国株式市場は、米FRBが公定歩合を引き上げるとの観測や高値警戒感などから上値は重く、S&P500は小幅ながら4日ぶりに反落しましたが、経済指標や予想を上回る企業業績等を背景に景気敏感株が買われ、NYダウは8日続伸となりました。朝方発表された2月の米消費者物価指数は前月比横ばいで予想(+0.1%)を下回り、インフレ圧力を懸念する状況にはないことが示されました。また週間新規失業保険申請件数は前週に引き続き減少したほか、3月のフィラデルフィア連銀景況指数も2ヶ月連続で改善し、市場に安心感が広がりました。また、予想を上回る個別企業決算や収益見通しの上方修正等の個別材料も好感されて相場を支えました。

### 世界的な景気回復を背景に外需関連株が上昇を主導するも、上値は限定的

国内株式相場は小幅高で始まりました。前日に引き続き不動産株や金融関連株等の弱さが目立つ一方、資源関連や外需関連株中心に堅調でした。寄り付き後は、円相場が主要通貨に対して軟調に推移したことから、輸送用機器や電機などの外需関連株を中心に上げ幅を広げ、日経平均株価は前場に10,800円台を回復しました。ただし、一段と上値を迫る動きは乏しく、その後は大引けまで10,800円台前半での小幅な値動きとなりました。材料に乏しく、外部環境に振らされやすい状況となっており、中国株式相場が非鉄株中心に引けにかけて大きく切り返すと、国内の株価指数も小幅に押し上げられて引けました。中国株式市場では米国の金融緩和策の継続に伴う安心感に加え、中国のアルミ大手株が英豪系資源大手とアフリカの鉄鉱石鉱山開発を手がける合弁会社の設立に向けて覚書を交わしたことが好感されて、非鉄株中心に相場を押し上げました。

今週、日経平均株価は+0.7%、TOPIXは+1.3%と4週連続で上昇しました。世界的なファンダメンタルズの改善や外部環境の落ち着き等を背景に資源関連株が堅調に推移したほか、日銀の量的緩和策拡大への期待から銀行株などの内需関連株も相場を支えました。しかし、値動きの乏しい日が続き、出来高も盛り上がり欠ける中、膠着感が漂う相場展開でした。日米ともに金融緩和の方向性が示されたことで、株式市場では下値リスクは和らいでいるように思われますが、欧州のソブリン・リスクや中国の金融引き締め懸念などの不安材料もあり、積極的な買いも見られませんでした。来週も材料に乏しく、国内市場は連休を挟んで4日間と短いことから、底堅いながらも外部環境に振らされやすい展開が続くものと思われます。

以上